

# 訓練コースを再編 企業ニーズに対応するために



## 神奈川県障害者職業能力開発校

創 立 ●1949年10月。神奈川県障害者公共職業補導所として設置  
所 在 地 ●神奈川県相模原市南区桜台13-1  
事 業 ●職業能力開発促進法に基づき、障害のある方を対象に、「職業人として自立」できるよう職業に必要な能力開発を行う。延べ定員150人。  
訓練コース ●機械系（機械エンジニア／2年、機械CAD／1年）、電子・情報系（ITエキスパート／2年、ITサポート／1年）、印刷系（グラフィックデザイン／1年）、オフィスビジネス系（ビジネスサポート／1年、ビジネスキャリア／1年）、実務作業系（総合実務1年）、オフィスビジネス系（ビジネス実務／6ヵ月）

○さらに充実した訓練を目指して

神奈川県障害者職業能力開発校は国が設置して、神奈川県が運営する職業訓練校。産業構造の変化や技術革新が進む中で、同校は企業が必要とする人材に応えるため、従来の訓練内容の改善を図り、今年度から新たなスタートをきった。

杉江嘉美副校長は、「何年も前からいろいろな課題を整理しながら訓練内容を見直してきました。プロジェクトチームを作って、企業サイドから近年求められているIT分野のエキスパートの育成や、知的障害者、精神障害者の一般事務職への就労支援など、訓練コースの再編や充実を図りました」と話す。

### ○訓練内容

訓練コースは全部で9つあるが、その一部を指導員の方に紹介いただいた。「身体障害者対象の電子・情報系のコースは主にプログラム開発を行っています。訓練生には日商PC検定のフープロと、表計算の3級が取れるように指導しています。訓練生のほとんどは関連業種に就職しています。授業で目指すのは品質管理・保証、技術サポートなどができるようにすることです」（佐久間理一指導員）

「機械系も身体障害者が対象ですが、機械エンジニアのコースは若年者向けで、初めて社会に出る人が対象。機械CADコースは社会経験がある人が対象で、新たなスキルを身につけてもらいます。両コースとも機械の保守や点検まで学び、もの作りの一連の流れを習得します」（井上秀夫指導員）

実務作業系のコースは、知的障害者が対象。

「他のコースは18〜60歳位と年齢の



幅が広いのですが、このコースは養護学校高等部卒業の生徒が多いので、保護者との連絡を密にするよう心がけています。店舗を想定した実習場では、商品の陳列や品出しを、ほかにはメール便の仕分けなどの軽作業や清掃等を学びます」（木下公太郎教務課長）

オフィスビジネス系のOA実務を学ぶコースは精神障害者が対象。

「ほかのコースは訓練期間が1年あるいは2年間なのですが、このコースは体調面などを考慮して訓練期間は6か月となっています。1日の訓練時間も入校当初は短く、徐々に長くしていくようにしています。授業は主にビジネスソフトを使ったパソコン操作で、事務職を目指しています」（木下課長）

ほかには印刷系のグラフィックデザイン、身体障害者と知的障害者が一緒にOAビジネスを学ぶビジネスキャリア、支援ソフトを活用してフープロや表計算などを学ぶ視覚障害者対象のビジネスサポートコースがある。

### ○就職に向けて

毎年秋に開催されるハローワーク主

催の企業の合同面接会に参加するほか、企業の方に学校に来てもらう校内求人説明会を開催している。校内の求人説明会は、これから本格的に実施したいと木下課長は話す。

「例えば、企業セミナーは参加企業が多いというメリットはあるのですが、雑然とした雰囲気になれない訓練生もいます。企業の方に学校に来ていただければ、企業もしっかりと説明ができて、訓練生も通い慣れたところで落ち着いて面接ができます。」

また、応援団というか、本校の活動にご支援いただいている企業が会員となつて、神奈川県職業自立能力開発推進協議会が1988年に設立されました。その会員企業の方に、就職に向けたガイダンスの講師などをやっていただいたり、あるいは求人説明会にご参加いただいたりして就職を目指します。」

就職率はリーマンショックの時に5割位に落ち込んだが、校内に就職対策委員会などを立ち上げて、現在は7、8割までもち直している。

○卒業後の定着指導にも力を入れる  
同校は在学中の訓練生へはもちろんのこと、就職後の職場定着指導にも積極的に取り組んでいる。いつでも訓練生への助言や相談を受けるなどの環境を整えている。

「卒業後3年程度は、卒業生に声をかけて学校に集まってもらい、情報交換の場を作っています。そういう場があると、卒業生は指導員に、こういうことで悩んでいるといった話もできます。また、就職先の企業の方から卒業生の就業状況などをお聞きして、本人にアドバイスもしています」（杉江副校長）